

2024年9月期決算説明会

2024年11月15日

富士製薬工業株式会社

東証プライム 4554



FujiPharma

本日本お伝えしたいこと

- 24/9期は、主力製品や新製品の伸長、一部製品の薬価引き上げ等により、売上高は過去最高を記録、**前期比+12.8%成長**を実現。
一方で、原材料高、廃棄増、円安の影響による売上総利益率の低下、研究開発や新製品の販売体制強化への先行投資による販管費増で、営業利益は**前期比+0.6%成長**にとどまる。
- 25/9期は、24/9期に上市した新製品の伸長、承継品や25/9期上市予定の新製品、新規受託の貢献により、**増収増益**を見込む。
税引き後営業利益ベース一株当たり利益は**138.45円 (+25.0%)**、税引き後営業利益ベースROEは**7.4% (+1.5%pt)**となる見込み。
- 配当金は、一株当たり**45.5円**（普通配当42.5円、記念配当3.0円）で3円の増配を見込む。
- 25/9期～29/9期にかけての新中期経営計画については、11月26日（火）新中期経営計画説明会にてお伝えします。
女性の健康課題の解決に全力で取り組むとともに、早期のPBR1倍超えを実現します。

Chapter 1 **2024年9月期連結決算概要**

Chapter 2 **2025年9月期連結業績予想**



Chapter

1

2024年9月期 連結決算概要

2024年9月期連結決算 ハイライト

売上高は計画を上回り伸長したものの、研究開発や新製品の販売体制強化への先行投資等による販管費の増加により営業利益は昨年対比微増にとどまった。

(単位：百万円)	23/9期実績	24/9期実績	前期比 (増減率)	24/9期計画 ^{※1}	計画比 ^{※1} (増減率)
売上高	40,889	46,138	+5,249	46,060	+78
(うち女性医療領域)	(18,002)	(20,327)	【+12.8%】	(20,864)	【+0.2%】
売上総利益	16,514	17,844	+1,330	—	—
			【+8.1%】		
営業利益	3,858	3,880	+22	3,990	▲109
			【+0.6%】		【▲2.7%】
研究開発費	3,184	3,401	+217	4,168	▲767
			【+6.8%】		【▲18.4%】
EBITDAR ^{※2}	9,750	10,626	+876	11,251	▲625
			【+9.0%】		【▲5.6%】
純利益	3,435	6,146	+2,711	6,185	▲38
			【+78.9%】		【▲0.6%】
税引き後営業利益ベース 一株当たり利益 ^{※3}	110.15円	110.76円	+0.60円	—	—
			【+0.5%】		
税引き後営業利益ベース ROE ^{※3}	6.5%	5.9%	▲0.6pt	—	—

※1：2024年5月9日「第2 四半期業績予想と実績の差異および通期業績予想の一部修正に関するお知らせ」ベース

※2：EBITDAR = 本業によるキャッシュ創出力の指標（営業利益 + 減価償却費（設備リース費含む） + 研究開発費）

※3：親会社株主に帰属する当期純利益ベースの一株当たり純利益及びROEは下記のとおり
23/9期 一株当たり純利益：141.37円 ROE：8.9%
24/9期 一株当たり純利益：252.85円 ROE：14.2%

◆ 新製品上市

- 2024年1月 レナリドミドカプセル「F」
- 2024年2月 ランジオロール塩酸塩点滴静注用「F」
- 2024年5月 ウステキヌマブBS皮下注シリンジ「F」（バイオシミラー）、スガマデクス静注液「F」

◆ 製造販売承認取得

- 2024年9月 アリッサ配合錠（女性医療新薬：月経困難症治療薬）

◆ 製造販売承認申請

- 2024年9月 バイオシミラー1製品申請（2024年10月バイオシミラー2製品申請） 計3製品

◆ その他（新製品）

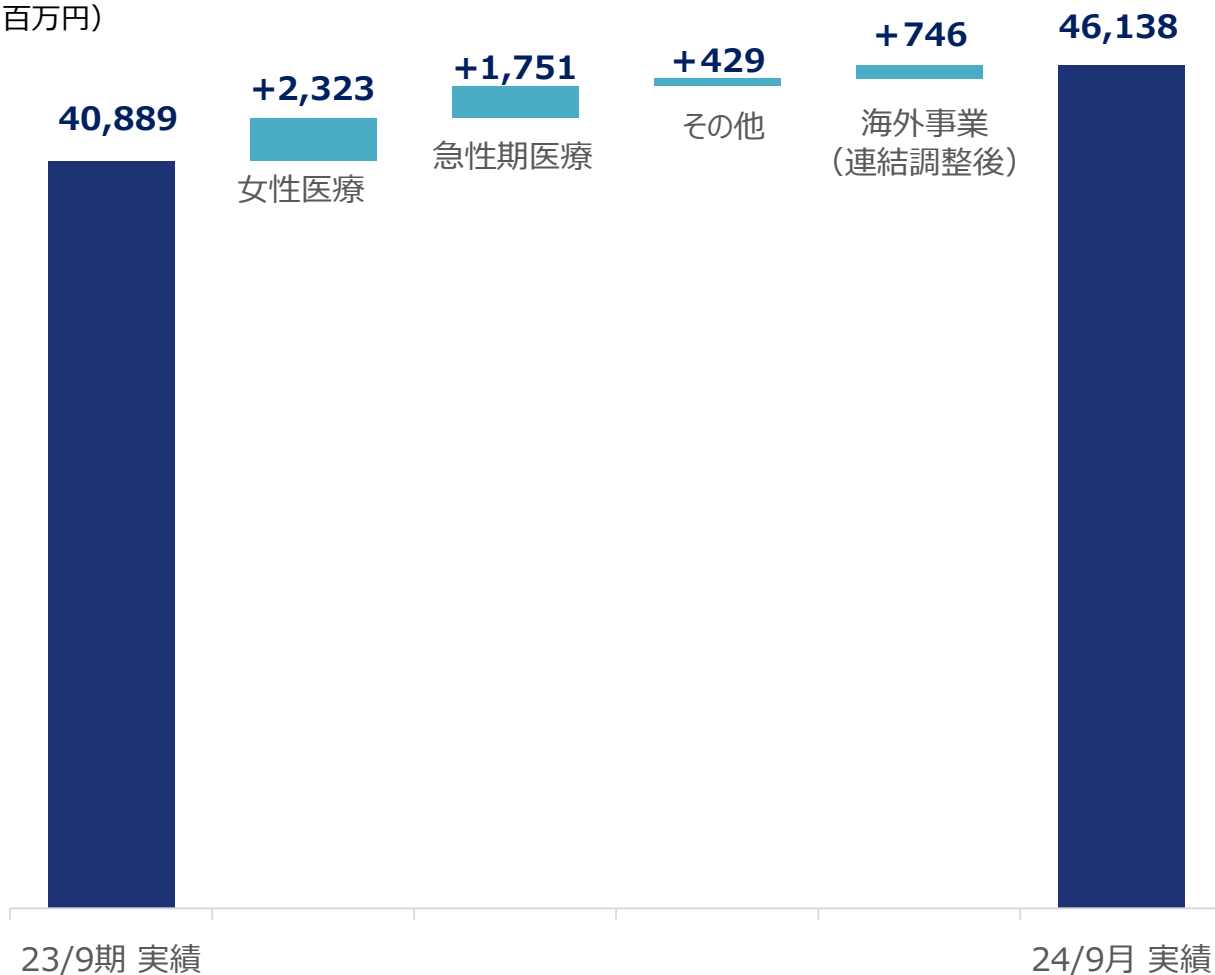
- 先発品3製品を承継
- 新規受託 商用生産準備
- Nextstellis® ベトナム・フィリピンでの供給契約締結
- Nextstellis® タイ薬局市場での販売の承認取得

2024年9月期連結売上高（前年同期比）

売上高は女性医療向け製品を中心とした市場浸透、急性期医療領域の一部製品における不採算品再算定、新製品の発売、海外事業の伸長により前年同期比52億円増

■ 24/9期 売上高増減要因（前年同期比）

（単位：百万円）



■ 主な増減要因

女性医療

ドキシル	496百万円
エフメノカプセル	429百万円
ファボワール	282百万円
ラベルフィーユ	184百万円
ウトロゲスタン	▲227百万円

急性期医療

デキサート注	388百万円
イオパミドール	360百万円

新製品

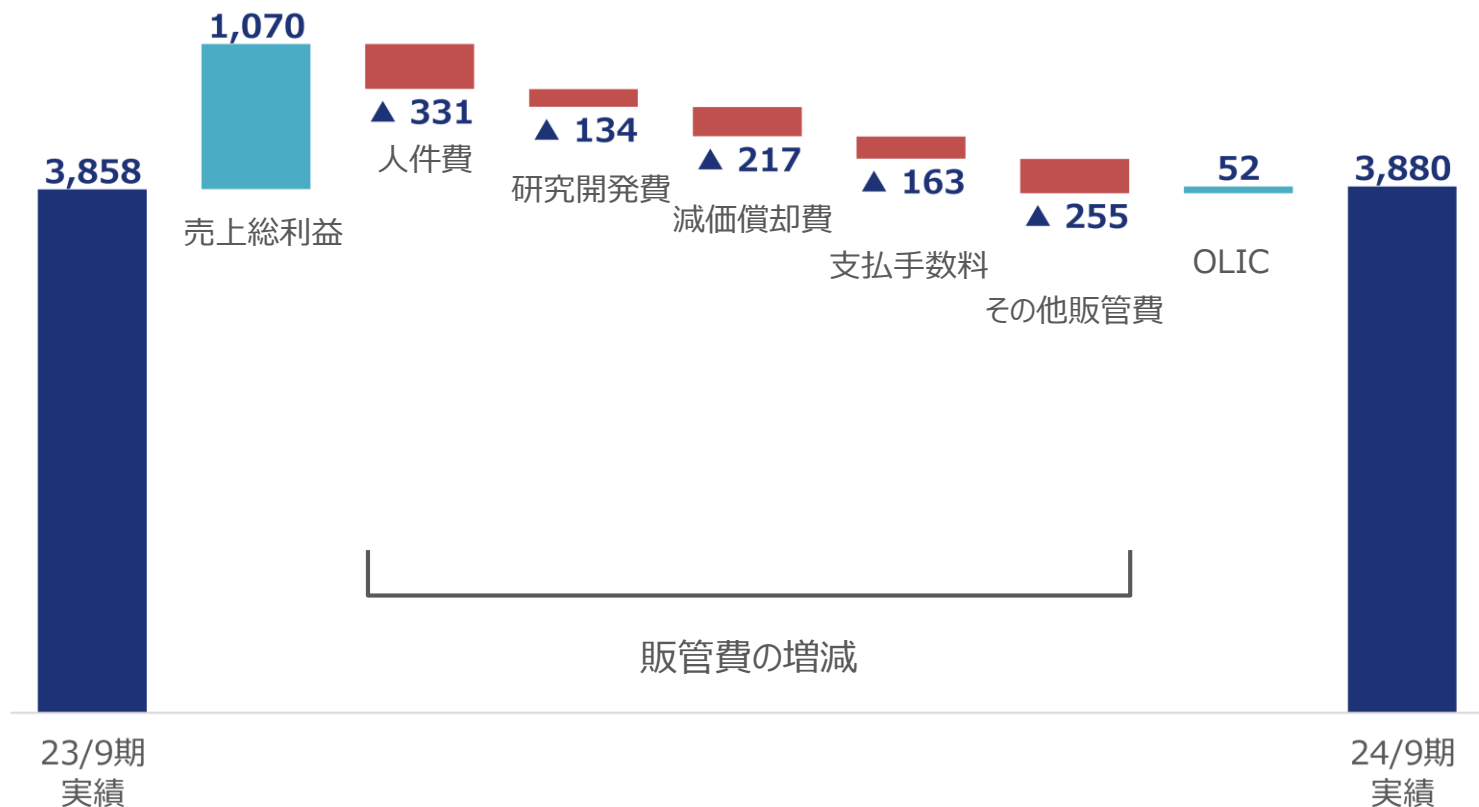
4製品	480百万円
-----	--------

2024年9月期連結営業利益（前年同期比）

売上増加に伴い売上総利益も増加した一方で、原材料高や廃棄増による売上総利益率の低下、研究開発や新製品の販売体制強化への先行投資による販管費増で、前期比0.2億円増（+0.6%）にとどまる

■ 24/9期 営業利益増減要因（前年同期比）

（単位：百万円）



■ 主な増減要因

売上総利益の増加

- 売上の増加
- 生産収率の悪化

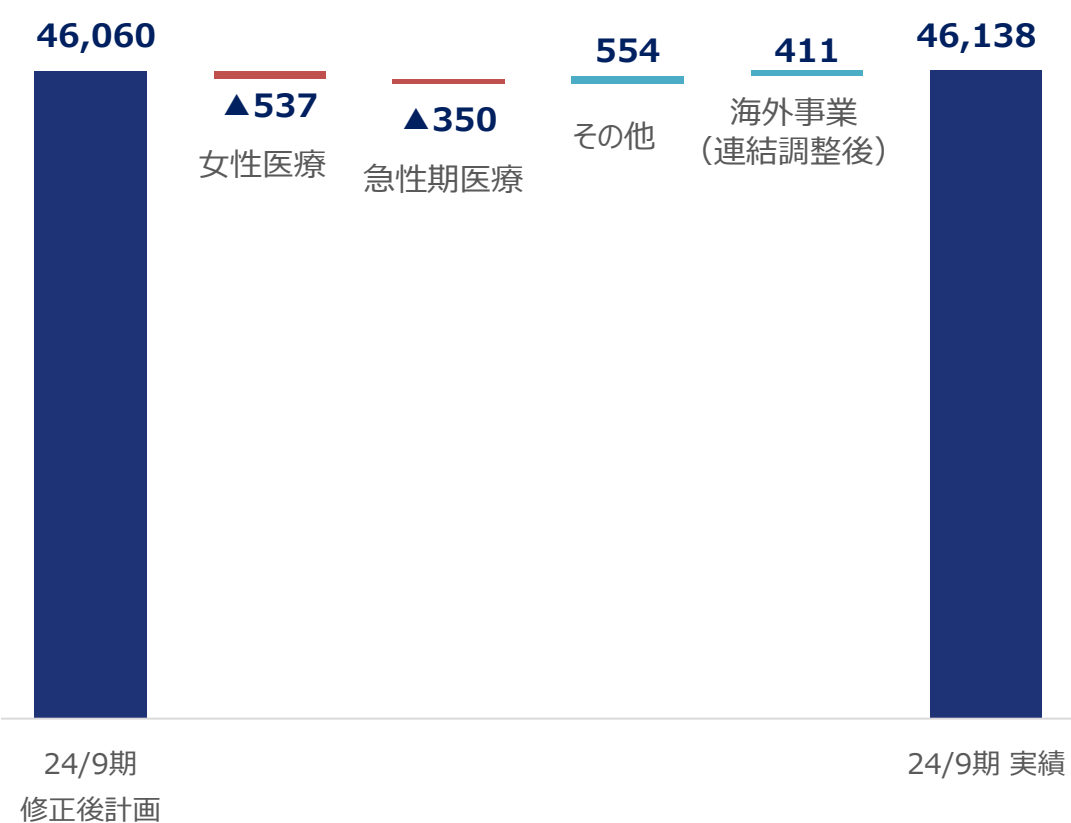
販売管理費の増加

- 人件費の増加
 - ウステキヌマブBSの情報提供体制構築
- 研究開発費の増加
 - アリッサ配合錠の開発マイルストーン支払い
 - 更年期障害治療薬PH80の開発・販売の独占交渉権
- 減価償却費の増加
 - 新製品の販売権償却
- 支払手数料の増加
 - 安全管理に伴う費用増加

2024年9月期連結売上高および営業利益（修正計画比）

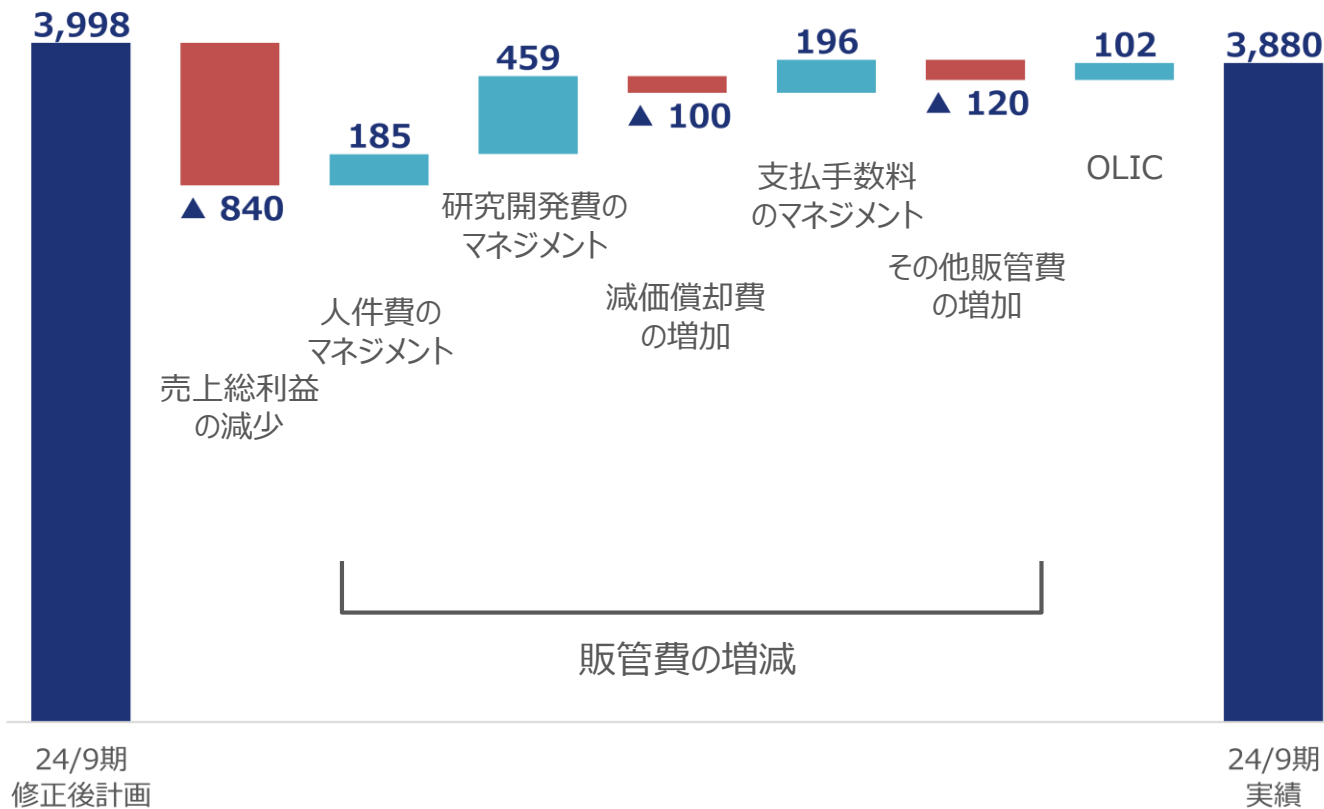
■ 24/9期 売上高増減要因（修正計画比）

（単位：百万円）



■ 24/9期 営業利益増減要因（修正計画比）

（単位：百万円）





Chapter

2

**2025年9月期
連結業績予想**

2025年9月期連結業績予想 ハイライト

(単位：百万円)	24/9期実績	25/9期予想	前期比 (増減率)
売上高 (うち女性医療領域)	46,138 (20,327)	53,360 (23,520)	+7,221 【+15.7%】
売上総利益	17,844	21,670	+3,825 【+21.4%】
営業利益	3,880	4,850	+969 【+25.0%】
研究開発費	3,401	4,040	+638 【+18.8%】
EBITDAR ^{※1}	10,626	12,600	+1,973 【+18.6%】
純利益	6,146	3,380	▲2,766 【▲45.0%】
税引き後営業利益ベース 一株当たり利益 ^{※3}	110.76円	138.45円 (128.56円) ^{※2}	+27.69円 【+25.0%】
税引き後営業利益ベース ROE ^{※3}	5.9%	7.4% (6.9%) ^{※2}	+1.5pt

売上高

- 24/9期に発売した新製品の伸長、承継品や今期発売予定の新製品、新規受託の商用生産開始の貢献もあり前期比72億円増 (+15.7%)

売上総利益

- 24/9期及び25/9期新製品の売上の伸長に加え、廃棄抑制を主とする生産収率向上を図り前期比38億円増 (+21.4%)

営業利益

- 販売権償却、DX推進などに伴う販売管理費の増加を上回る売上増加に伴う売上総利益の増加、OLIC買収に係るのれん償却が期中に終了することによる影響もあり前期比9億円増 (+25.0%)

EBITDAR

- 本業によるキャッシュ創出力の指標は前期比19億円増 (+18.6%)

一株当たり利益

- 増益効果により、一株当たり利益（税引き後営業利益ベース）は138.45円 (+25.0%)

ROE

- 営業利益率の上昇により、ROE（税引き後営業利益ベース）は7.4% (+1.5%pt)

※1：EBITDAR = 本業によるキャッシュ創出力の指標（営業利益 + 減価償却費（設備リース費含む） + 研究開発費）

※2：24年7月発表の第三者割当による新株予約権の発行による自己資本の調達後（第1回のみ）

※3：親会社株主に帰属する当期純利益ベースの一株当たり純利益及びROEは下記のとおり
24/9期 一株当たり純利益：252.85円 ROE：14.2%
25/9期 一株当たり純利益：139.07円 ROE：7.5%

2025年9月期 前期成果が数字として結実

◆ 新製品上市

- 2024年1月 レナリドミドカプセル「F」
- 2024年2月 ランジオロール塩酸塩点滴静注用「F」
- 2024年5月 ウステキヌマブBS後続1（バイオシミラー）、スガマデクス静注液「F」

24/9期新製品

25/9期
売上高増加額

+20億円

◆ 製造販売承認取得

- 2024年9月 アリッサ配合錠（月経困難症治療薬）

アリッサ

+11億円

◆ 製造販売承認申請

- 2024年9月 バイオシミラー1製品申請（2024年10月バイオシミラー2製品申請） 計3製品

◆ その他（新製品）

- 先発品3製品を承継
- 新規受託 商用生産準備
- Nextstellis® ベトナム・フィリピンでの供給契約締結
- Nextstellis® タイ薬局市場での販売の承認取得

承継品

+19億円

新規受託

+8億円

アリッサ配合錠（エストロール／ドロスピレノン配合錠）

女性医療領域事業
を支えるトップ製品へ

25/9期予想売上高
11億円

月経困難症の治療

- 本邦における月経困難症治療患者のうち、LEPを使用している患者の割合は78%※に上る

アリッサ配合錠の概要

- 本邦で初めて天然型エストロゲンのエストロール（E4）を含有する月経困難症治療薬
- エストロール／ドロスピレノン配合剤（卵胞ホルモンと黄体ホルモンを組み合わせた配合剤）
- 米国・欧州含め41か国で承認済（2024年10月時点、タイではOLICが上市）

エストロール（E4）の特徴

- 日本における新規有効成分
- E4は LEP の重篤な副作用である 静脈血栓塞栓症リスクが低減されるなど、合成エストロゲン誘導体を含有する既存の LEP にないメリットが期待されている



バイオシミラー パイプライン

- ◆ 当社とAlvotech社間で条件合意した製品は合計7製品（国内先行品市場規模：4,500億円超）
 - 2024年9月、10月に3製品を承認申請
 - 領域専任組織、メディカルアフェアーズ部設置等による効果的な情報提供体制構築
 - 2024年5月に上市したウステキヌマブは基幹病院を中心に展開し、計画を遥かに上回る進捗



※時間軸は当社目標時期
 ※Product F：開発中止

2025年9月期連結業績予想 売上高

売上高は女性医療領域、前期新製品の伸長等により前年同期比72億円の増加

■ 25/9期 売上高増減要因（前年同期比）

■ 主な増減要因

(単位：百万円)



新製品

- アリッサ 1,148百万円

市場浸透

- 24/9期新製品 2,043百万円
(ウステキヌマブ、レナリドミド、スガマデクス、ランジオロール)
- エフメノカプセル 519百万円
- 経口避妊薬 293百万円

通期貢献

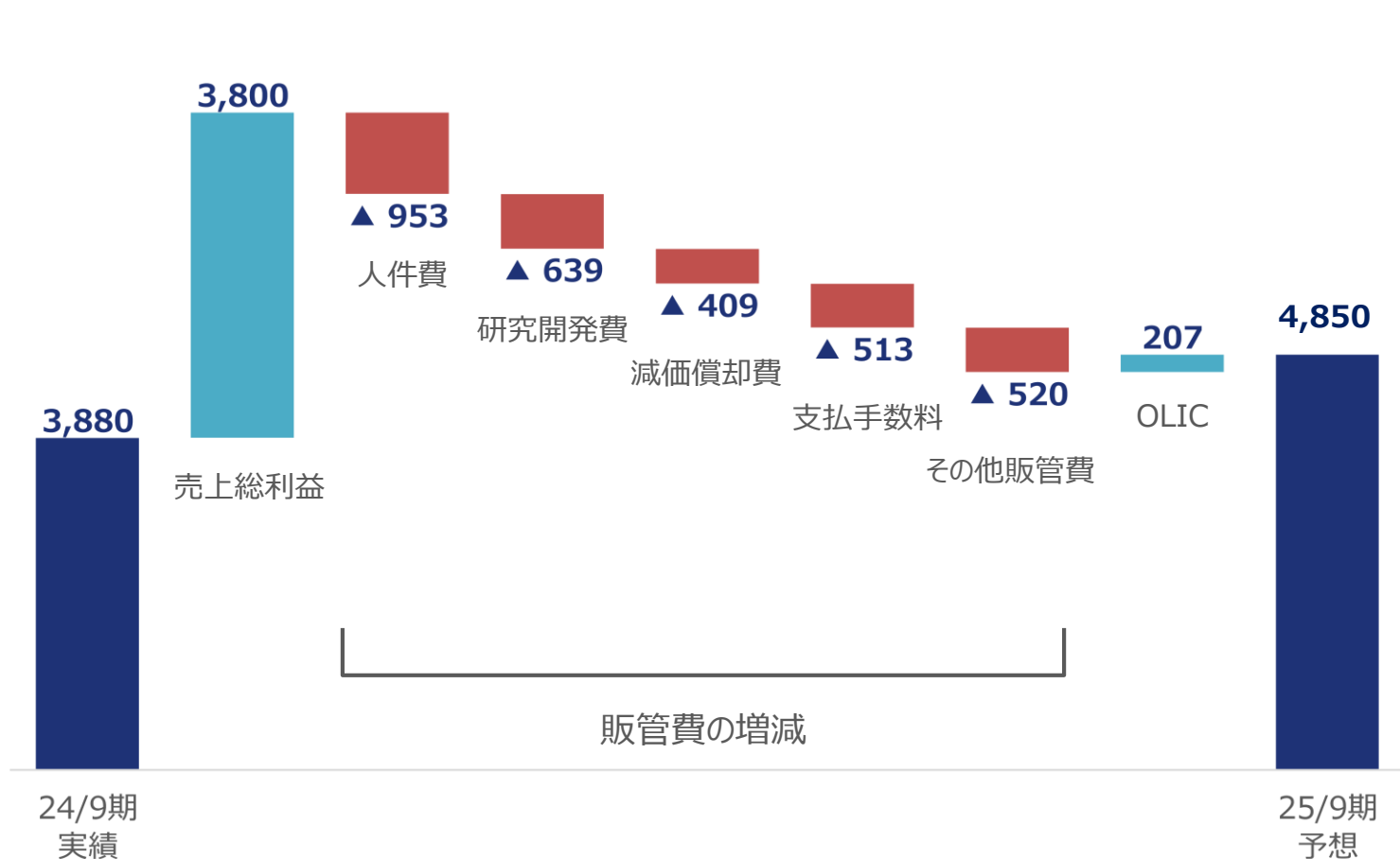
- 24/9期承継品 1,915百万円
- 新規受託 商用生産開始 824百万円

2025年9月期連結業績予想 営業利益

販売権償却、DX推進などに伴う販売管理費の増加を上回る売上増加に伴う売上総利益の増加、OLIC買収に係るのれん償却が期中に終了することによる影響もあり前期比9億円増（+25.0%）

■ 25/9期 営業利益増減要因（前年同期比）

（単位：百万円）



■ 主な増減要因

売上総利益の増加

- 女性医療領域、前期新製品など、収益性の高い製品群の利益貢献
- 廃棄抑制

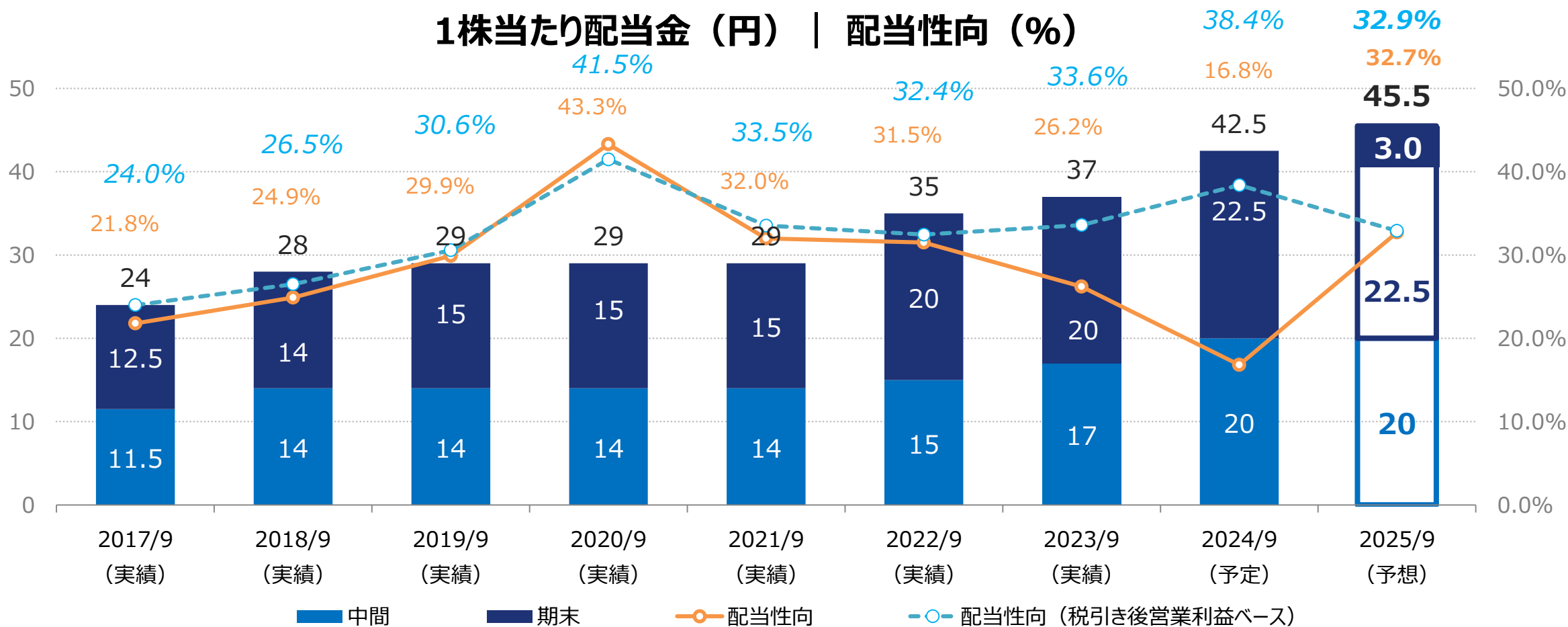
販売管理費の増加

- 研究開発費の増加
- 無形資産への投資
 - 組織体制強化に伴う人件費の増加
 - 販売権償却（導入・承継品）による減価償却費の増加
 - DX推進に伴う支払手数料の増加

2025年9月期株主還元

- ◆ 当社配当方針は、安定配当を軸とした配当性向30%であり、2025年9月期当期利益予想値に対して、配当性向30%を適用し、年間配当45円を計画（中間20円、期末25.5円）※内訳 期末に記念配当 3円を含む
- ◆ なお、特殊要因により親会社株主に帰属する当期純利益が大きく変動する場合は、その影響を除いて配当金額を決定することがあります。（参考：下図における税引き後営業利益ベース配当性向）

1株当たり配当金（円） | 配当性向（%）



※ 2018年7月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施。そのため、2018年9月期中間配当以前は、当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり配当金を算出

Appendix

2024年9月期決算概要

(百万円)	23/9期通期	24/9期通期	前期比		24/9期 通期予想	予想比 進捗率
			増減額	増減率		
売上高	40,889	46,138	5,249	12.8%	46,060	100.2%
売上総利益	16,514	17,844	1,330	8.1%	-	-
粗利益率	40.4%	38.7%	-	-	-	-
販売管理費	12,656	13,963	1,307	10.3%	-	-
販売管理費率	31.0%	30.3%	-	-	-	-
営業利益	3,858	3,880	22	0.6%	3,990	97.2%
営業利益率	9.4%	8.4%	-	-	8.7%	-
経常利益	4,519	4,453	▲ 66	-1.5%	4,602	96.8%
経常利益率	11.1%	9.7%	-	-	10.0%	-
親会社株主に帰属する当期純利益	3,435	6,146	2,711	78.9%	6,185	99.4%
当期純利益率	8.4%	13.3%	-	-	13.4%	-
ROA	5.6%	5.1%				
ROE	8.9%	14.2%				
1株当たり当期純利益 (単位：円)	141.37	252.85				
配当性向	26.2%	16.8%				
EBITDAR ^{*1}	9,750	10,409	659	6.8%	11,251	92.5%
EBITDA ^{*2}	6,565	7,224	659	10.0%	3,092	233.6%
設備投資額	3,652	2,686	▲ 966	-26.5%	5,025	53.5%
減価償却費 (設備リース費含む)	2,707	3,343	636	23.5%	3,092	108.1%
研究開発費	3,184	3,184	0	0.0%	4,168	76.4%
研究開発費率	7.8%	6.9%	-	-	9.0%	-

* 1) EBITDAR : 売上総利益 - 販売管理費 + 減価償却費 (設備リース費含む) + 研究開発費

* 2) EBITDA : 売上総利益 - 販売管理費 + 減価償却費 (設備リース費含む)

2024年9月期連結決算 概要

売上高

- 主力製品や新製品（バイオシミラー 1 製品、ジェネリック 3 製品）の伸長、不採算品再算定による一部製品の薬価引き上げなどにより、**前期比52億円増（+12.8%）**

売上総利益

- 売上増加に伴い売上総利益も増加となるも、原材料高、廃棄増、為替の影響により**前期比13億円増**にとどまる

営業利益

- 研究開発や新製品の販売体制強化への先行投資による販管費増で、**前期比0.2億円増（+0.6%）**

EBITDAR

- 本業によるキャッシュ創出力の指標は**前期比 8 億円増（+9.0%）**

純利益

- 投資有価証券の売却などにより、**前期比27億円増（+78.9%）**

一株当たり当期純利益

- 投資有価証券の売却などにより、**前期比111.48円増（+78.9%）**

ROE

- 投資有価証券の売却などにより、24/9期 **14.2%（前期比+5.2%pt）**

※：EBITDAR = 本業によるキャッシュ創出力の指標（営業利益 + 減価償却費（設備リース費含む） + 研究開発費）

領域別売上高

領域別 (百万円)	22/9月期	23/9月期	24/9月期	前期比	
				増減額	増減率
女性医療	13,683	18,004	20,327	2,323	12.9%
急性期医療	15,353	15,380	17,131	1,751	11.4%
海外事業 (OLIC社)	2,866	3,467	4,213	746	21.5%
その他事業	3,522	4,036	4,465	429	10.6%
合計	35,426	40,889	46,138	5,249	12.8%

※海外事業 (OLIC社) は連結調整後の金額

領域別詳細

急性期医療 (百万円)	22/9月期	23/9月期	24/9月期	前期比	
				増減額	増減率
造影剤	8,558	8,896	9,869	973	10.9%
バイオシミラー	1,492	1,718	1,761	43	2.5%
抗がん剤	1,334	1,096	984	▲ 112	-10.2%
その他	3,968	3,670	4,516	846	23.1%
合計	15,353	15,380	17,131	1,751	11.4%

女性医療 (百万円)	22/9月期	23/9月期	24/9月期	前期比	
				増減額	増減率
不妊症治療剤	3,270	4,764	4,850	86	1.8%
経口避妊剤	3,685	3,848	4,368	520	13.5%
更年期障害治療剤	-	3,276	4,022	746	22.8%
子宮内膜症治療剤	2,546	2,453	2,527	74	3.0%
抗がん剤	-	1,321	1,817	496	37.5%
月経困難症治療剤	1,056	821	974	153	18.6%
その他	1,996	1,519	1,764	245	16.1%
合計	13,683	18,004	20,327	2,323	12.9%

上位15製品売上高

製品名 (百万円)	分類	22/9月期 実績	23/9月期 実績	24/9月期 実績	前期比	
					増減額	増減率
イオパミドール注	造影剤	5,996	6,301	6,661	360	5.7%
エフメノ®カプセル	更年期障害治療	<u>681</u>	<u>2,751</u>	3,181	<u>430</u>	<u>15.6%</u>
ウトロゲスタン®腔用カプセル	不妊症治療	<u>1,218</u>	<u>2,663</u>	2,436	▲ 227	<u>-8.5%</u>
ファボワール®錠	経口避妊	1,663	1,792	2,074	282	15.7%
ジエノゲスト錠	子宮内膜症治療	1,652	1,728	1,858	130	7.5%
ドキシル®注	抗がん剤治療	-	<u>1,321</u>	1,817	<u>496</u>	<u>37.5%</u>
フィルグラスチムBS注シリンジ	抗がん剤治療	1,492	1,718	1,761	43	2.5%
イオヘキソール注	造影剤	1,707	1,451	1,550	99	6.8%
デキサート®注射液	その他	865	976	1,364	388	39.8%
ラベルフィーユ®錠	経口避妊	960	1,048	1,233	185	17.7%
レボノルゲストレル錠	緊急避妊	1,062	1,007	1,060	53	5.3%
フロリアミン®錠/散/注	その他	<u>475</u>	<u>841</u>	893	<u>52</u>	<u>6.2%</u>
HMG注射用	不妊症治療	736	652	846	194	29.8%
ルナベル®配合錠(LD/ULD)	月経困難症治療	<u>955</u>	<u>777</u>	837	<u>60</u>	<u>7.7%</u>
HCG「F」	不妊症治療	408	647	721	74	11.4%
上位15品目合計		19,877	25,680	28,299	2,619	10.2%
売上高に占める構成比		<u>56.1%</u>	<u>62.8%</u>	61.3%		
その他の製品		12,682	11,741	13,625	1,884	16.0%
海外事業 (OLIC社)		2,866	3,467	4,213	746	21.5%
合計		35,426	40,889	46,138	10,712	30.2%

急性期医療

女性医療

※下線製品は、当社でのブランド薬（ブランド薬・ブランドジェネリック（承継品）・バイオシミラー）

※海外事業（OLIC社）は連結調整後の金額

主要製品売上高予想

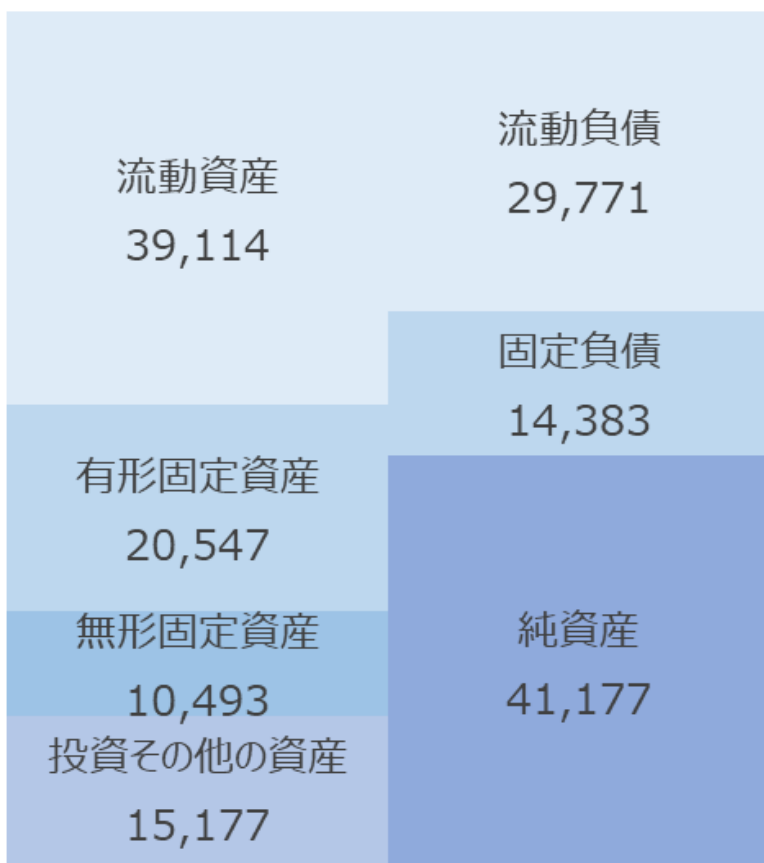
分類	製品名 (百万円)	24/9月期 実績	25/9月期 予想	前期比	
				増減額	増減率
女性医療	エフメノ [®] カプセル	3,181	3,700	519	16.3%
	ウトロゲスタン [®] 腔用カプセル	2,436	2,500	64	2.6%
	ドキシル [®] 注	1,817	1,800	▲ 17	-0.9%
	ファボワール [®] 錠	2,074	2,400	326	15.7%
	ラベルフィーユ [®] 錠	1,233	1,200	▲ 33	-2.7%
	レボノルゲストレル錠	1,060	1,000	▲ 60	-5.7%
	アリッサ [®] 配合錠	-	1,100	1,148	-
BS	ウステキヌマブBS	75	300	225	300.0%
	フィルグラスチムBS	1,761	1,700	▲ 61	-3.5%
その他	造影剤	8,211	8,500	289	3.5%
	2024年9月期 新製品	412	2,200	1,788	434.0%
	2024年9月期 承継品	102	2,000	1,898	1860.8%

2024年9月期連結貸借対照表

➤ 自己資本比率は2.3ポイント改善 (48.3%→50.6%)

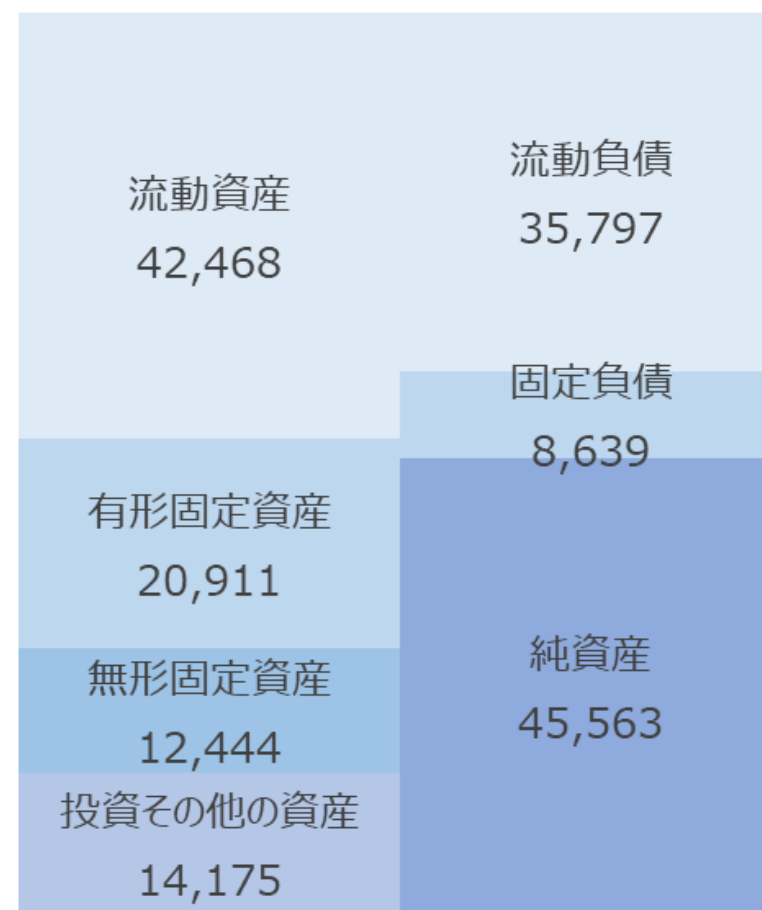
2023年9月末

総資産 85,332



2024年9月末

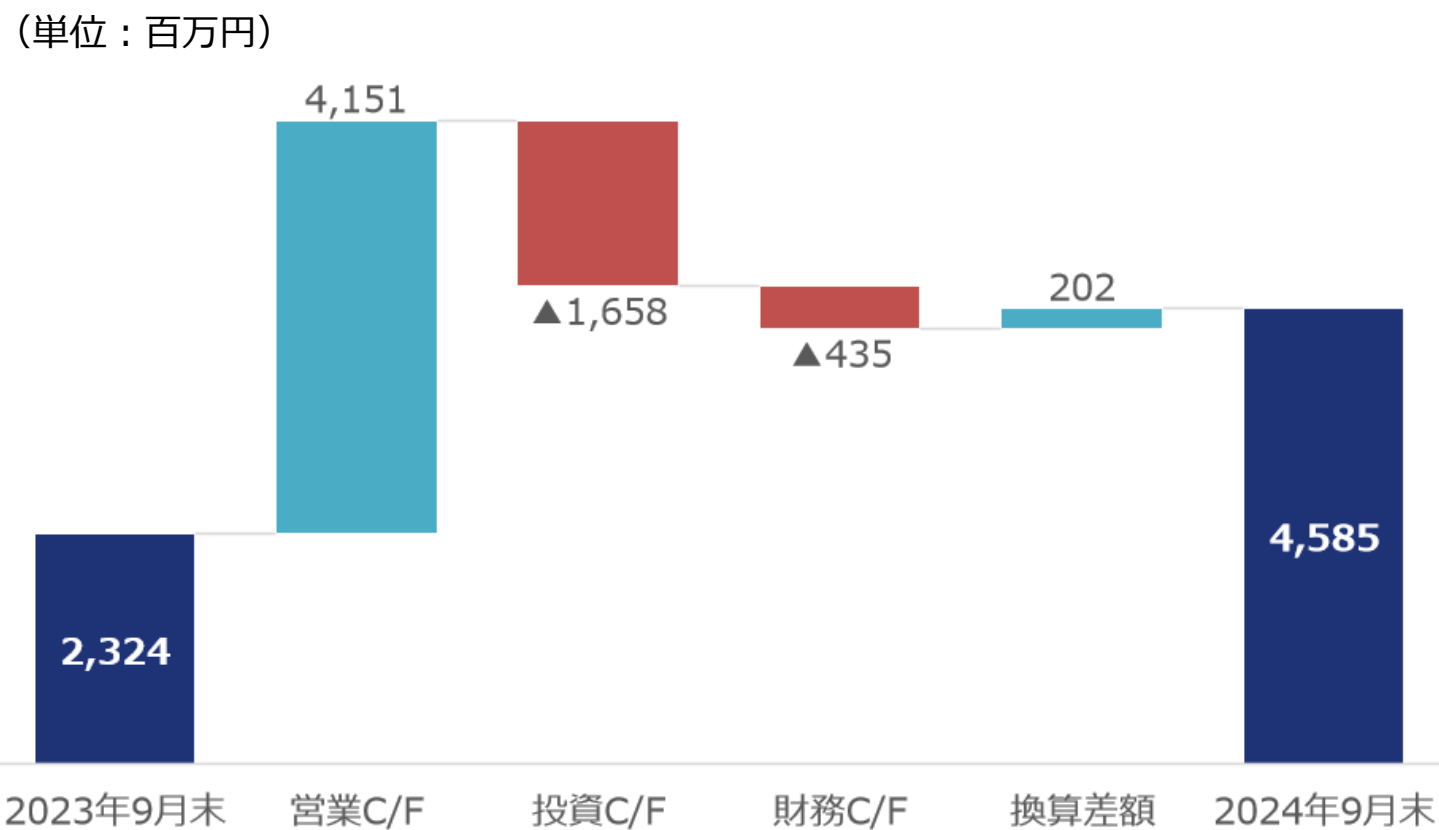
総資産 90,000



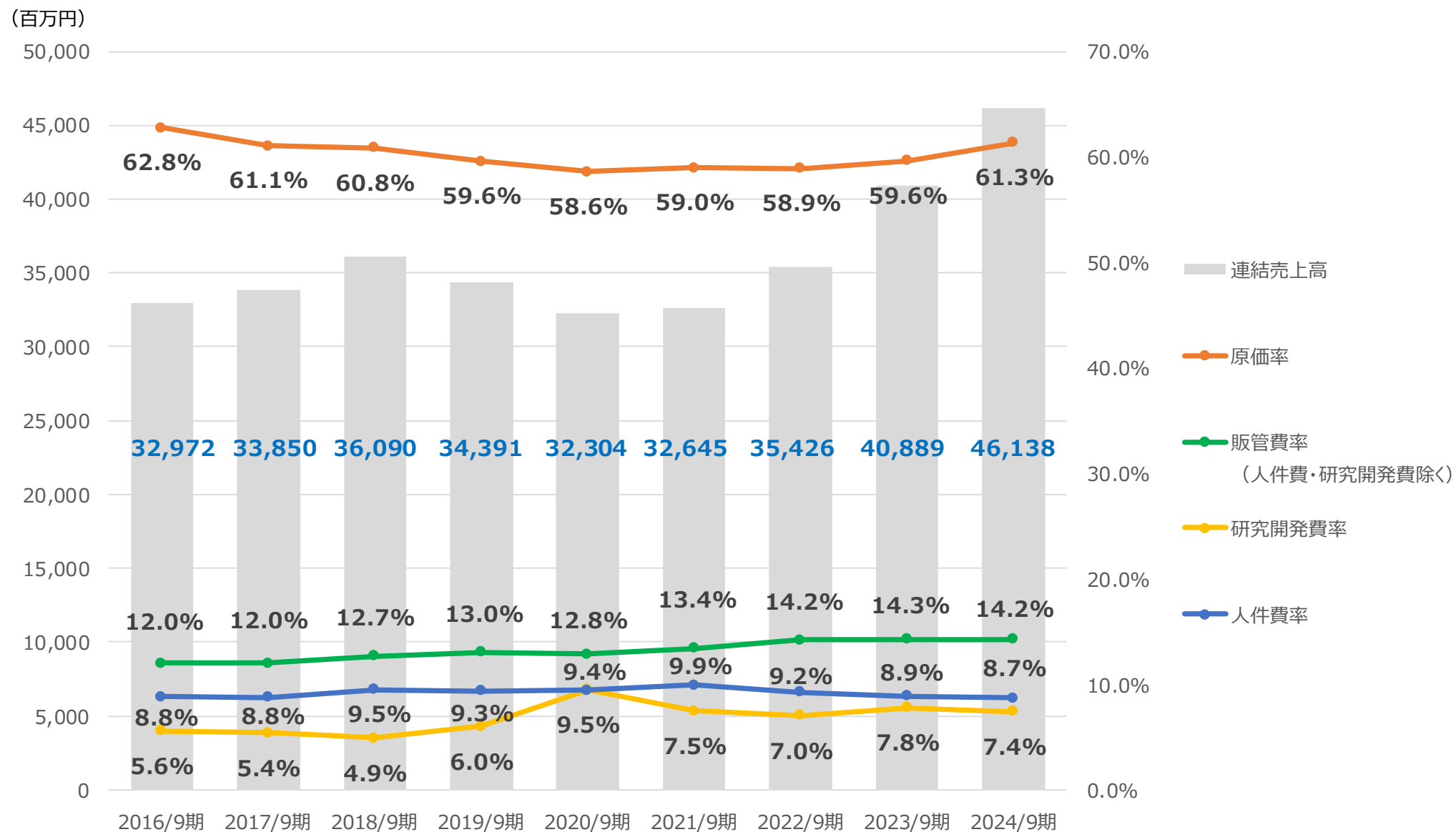
(単位：百万円)

2024年9月期連結キャッシュ・フロー計算書

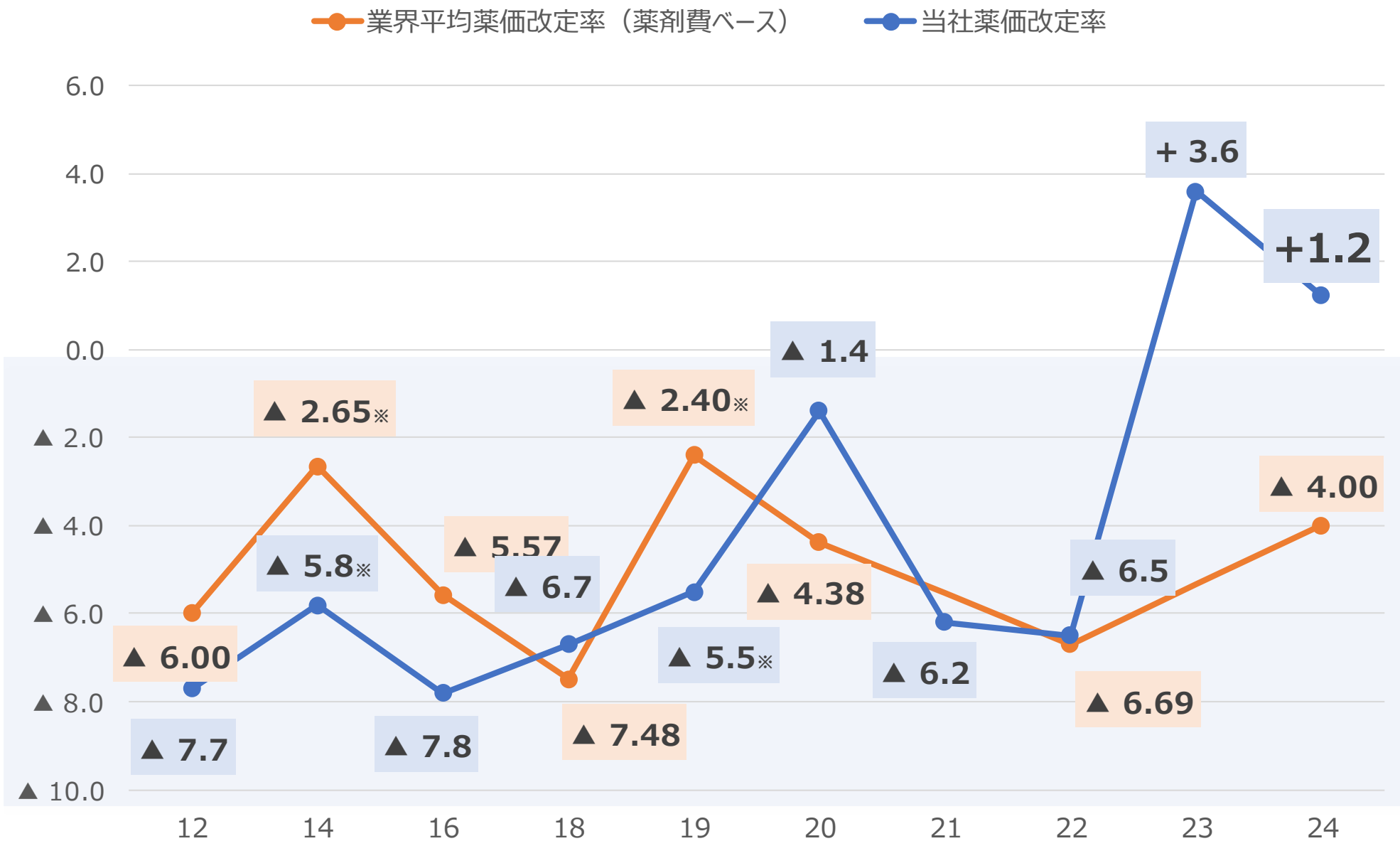
- 営業C/F
棚卸資産の減少や、売上債権増加額の抑制、減価償却費の増加により+4,151百万円
- 投資C/F
投資有価証券の売却があった一方で、設備投資や無形資産への支出があったことにより▲1,658百万円



当社原価率・販管費率・研究開発費率トレンド（新会計基準）

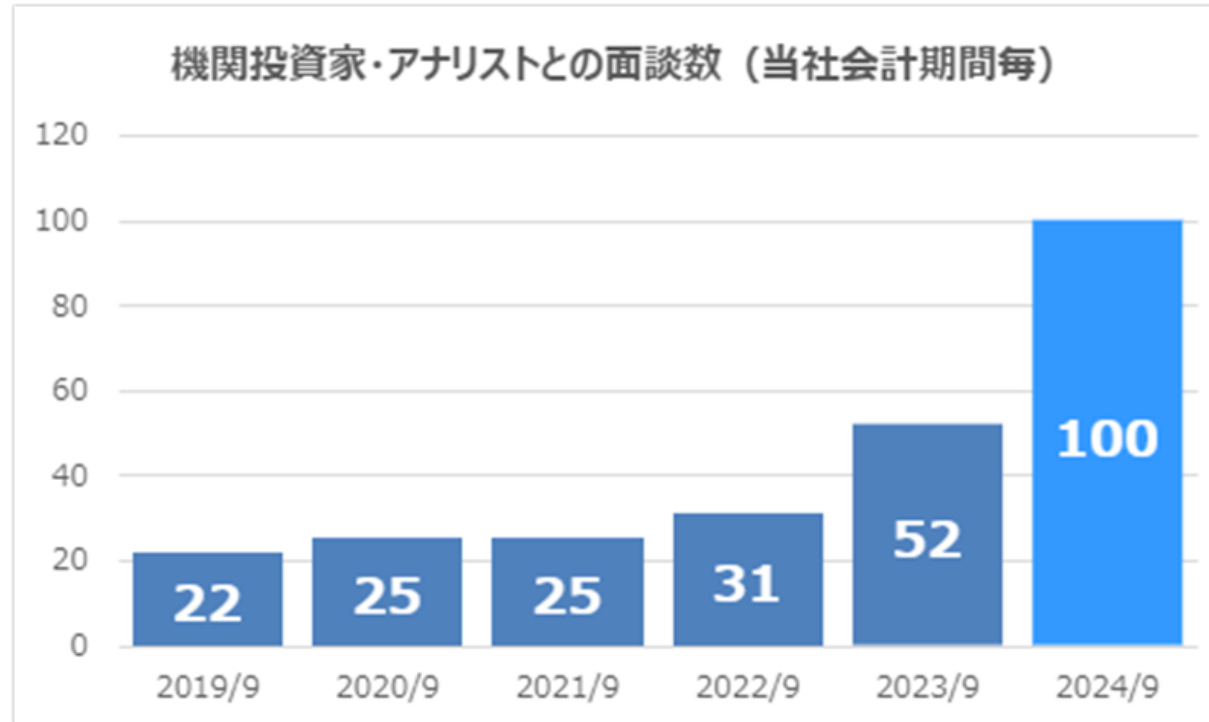


薬価改定影響推移



※：消費増税に伴う引き上げ分を含む

種類	予算レート	取引	影響
米ドル	143.0円	仕入	1 円の円安で約6百万円の売上原価増
ユーロ	158.0円	仕入	1 円の円安で約17百万円の売上原価増



● 注目いただいているポイント

- 領域特化の姿勢は変わらず、ジェネリック中心から新薬・バイオシミラー中心の高付加価値型への転換
- 女性医療領域の今後の展望、成長ドライバー
- バイオシミラー事業の進捗、今後の展開

新社長のご紹介と 長期ビジョン2035による企業価値創造に向けて

2024年10月2日

富士製薬工業株式会社

東証プライム 4554



FujiPharma



社長交代について

取締役顧問 今井 博文

次なる
挑戦へつなぐ



60周年の区切りで
創業家の
ワンマン経営からの刷新



次世代の森田新社長による
次なる挑戦ステージへの転換を
しっかり見据えることができた

諦めずに成し遂げる実行力と
優れたヒューマンスキルで
将来ビジョンを必ずや実現してくれる



新社長の選任プロセスと 今後の経営体制

代表取締役会長 岩井 孝之

選任プロセス・選任理由

約5年間にわたり、 新社長候補を検討

- 前中経 2019.10～2024.9 : 製品開発フェーズ
- 新中経 2024.10～2029.9 : 製品価値最大化のフェーズ
- フェーズに適したリーダー像

指名報酬委員会から の指摘事項・意見

- 営業以外の広範な業務経験と全般を俯瞰する力の必要性
- 2021年10月～2023年9月 SCM部長（調達～販売を総合的に俯瞰）
- 2023年10月～2024年9月 経営企画部長

指名報酬委員会での 選任理由

- 新製品の開発が5年間で順調に進み、製品ポートフォリオが拡大、会社として次のフェーズに入るタイミングになったこと
- 森田氏がいずれの部署でも安定した実力を発揮し、営業部での長い経験も活かし社内外の求心力をもって新製品の価値最大化に向けてリーダーとしてふさわしい

取締役会議長として、執行の監督を中心に経営をサポートします

取締役会



取締役会議長
岩井 孝之
執行の監督

取締役 **9名**

社内 **4名** 社外 **5名**

(現状：社内5、社外4)

権限移譲

提案・報告

経営執行会議



代表取締役社長
森田 周平
業務執行

執行役員 **16名**

※正式な決定は2024年12月20日に開催される
定時株主総会及び取締役会において行われる予定です。



今後の経営方針

代表取締役社長 森田 周平



もりた しゅうへい

代表取締役社長

森田 周平

所有する当社株式数 **3,793株**

藤沢ファイソンス（現サノフィ）、GSKにて、MRとして開業医や大学病院を担当後、富士製薬工業に入社。当社ではMRとしてスタートし医薬品流通に従事。営業管理職を経て、営業本部長として営業組織とマーケティング組織を統率し当社の市場におけるプレゼンス向上を果たす。その後、SCM部長として原材料の調達から製品出荷までを管理する立場となり、生産に関わる各機能、営業本部との連携を通じて供給制限品目の半減など安定供給体制の構築を果たす。経営企画部長に就任後は、生産、営業、研究開発、信頼性保証、コーポレート、海外グループ会社のOLICと連携して、直近2024年9月期の事業計画の推進、全社機能を把握し前中期経営計画の課題を踏まえた新中期経営計画の作成を主導する。

経営理念

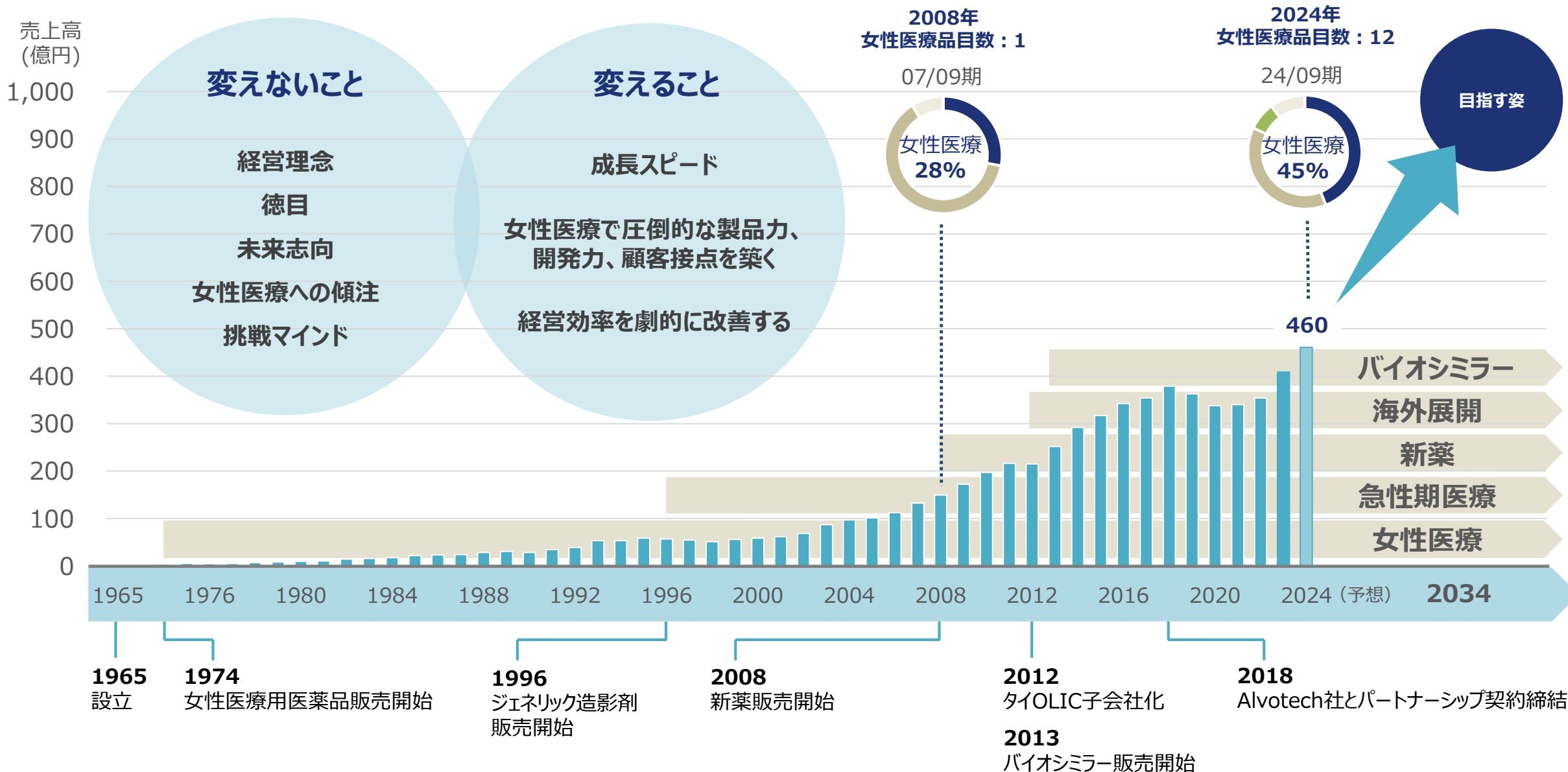
優れた医薬品を通じて、人々の健やかな生活に貢献する
 富士製薬工業の成長は、わたしたちの成長に正比例する

経営において
 大切に
 する
 「徳」



自己の最善を
 他者に尽くしきること

さらなる挑戦を通じて成長を加速させます



社長として私のコミットメント

- 全ての社員が
幸せを実感できる会社になります
- 人がど真ん中、
人的資本経営に更に注力します
- 10年、20年後を見据え、
価値提供、他社にない圧倒的な
強みの獲得を目指します
- 未解決・未充足の女性の健康課題解決に全力で取り組むことで社会に貢献します
- 経営理念、徳目教育を通じて構築された
真面目で誠実な組織風土を大切にしていきます
- 社員みんなが、更なる成長と貢献を
主体的に果たせるよう、フラットでオープン、
一体感のある組織を構築します
- 全てのステークホルダーと共に
企業価値を向上させ、
早期のPBR1倍超えを実現します

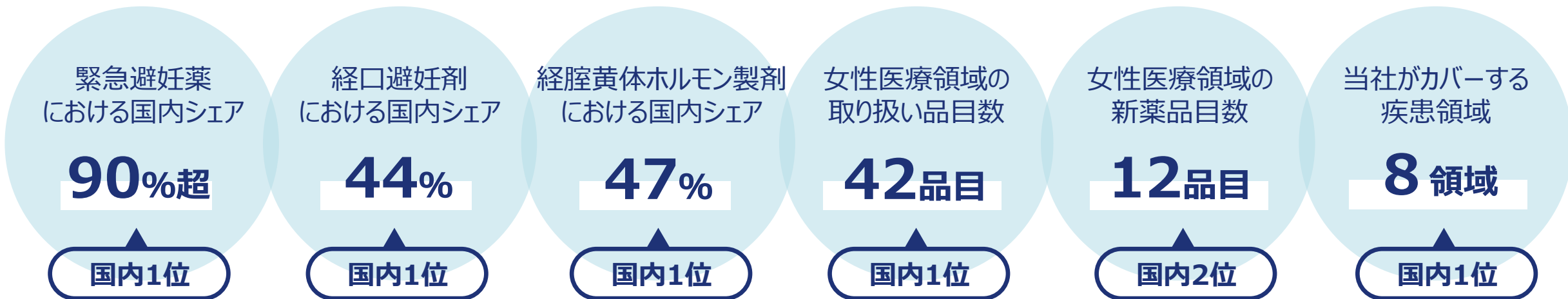


長期ビジョン2035

**女性医療で新たな価値を創出し続け、
誰もがwell-beingを実感できる社会へ貢献する**

これまで築いた無形資産・有形資産が強みにつながっています

女性医療領域が当社の強み



顧客資産

大学病院における
産婦人科製剤採用率

100%

販売体制

女性医療領域専門の
MR

90名

同業他社比 3倍超

生産体制

高い生産・品質保証を
構築する工場設備

1.5億錠→4.5億錠
国内生産を賄える

24/9期（予想） 女性医療領域の売上高

新製品上市などで成長。
成長を加速させ、業界No.1へ

208億円

45%

売上高構成比

※当社調べ

※女性医療領域の範囲の定義：更年期障害、不妊症、経口避妊剤、月経困難症、子宮内膜症、抗がん剤、周産期、感染症

女性の健康課題は日本社会にとって大きな課題です

人生のうち、女性は男性よりも**25%多い時間を、不健康な状態で過ごしています**※1



月経随伴症に伴う経済損失額

約**6,000**億円

更年期症状による経済損失額

約**1兆9,000**億円



※2

女性を取り巻く健康課題

子宮内膜症
(推定患者数※3)

約**17**万人

月経随伴症
(推定無治療人数※5)

約**1,300**万人

子宮筋腫
(推定患者数※3)

約**19**万人

更年期症状
(推定無治療人数※5)

約**300**万人

婦人科がん
(15~64歳の患者数※3) (検査や治療を受ける割合※4)

約**57**万人

不妊症
(検査や治療を受ける割合※4)

約**4.4**組に**1**組

※1 出典：世界経済フォーラム2024「Closing the Women's Health Gap: A \$1 Trillion Opportunity to Improve Lives and Economies」

※2 出典：経済産業省ヘルスケア産業課「女性特有の健康課題による経済損失の試算と健康経営の必要性について」

※3 出典：厚生労働省「令和2年患者調査」

※4 出典：厚生労働省「不妊治療と仕事との両立サポートハンドブック」

※5 出典：経済産業省ヘルスケア産業課「女性特有の健康課題による経済損失の試算と健康経営の必要性について」、厚生労働省「人口動態統計」をもとに自社推計

既存製品・開発製品の最大化を通じて、成長を目指します。

01
女性医療

02
バイオシミラー

03
グローバルCMO

04
次の成長ドライバー
の仕込み・見極め
長期の成長けん引役

予想および見通しに関するご注意事項

本資料に記載の業績予想及び将来の予想等に関する記述は、資料作成時点で入手した情報に基づき弊社にて判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。予告なしに内容が変更または廃止される場合がございますので、予めご了承ください。また、本資料に含まれている医薬品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

連絡先

富士製薬工業株式会社 経営戦略本部 経営企画部 コーポレートコミュニケーション課

E - M a i l : fsk_ir@fujipharma.jp

U R L : <https://www.fujipharma.jp/>